

第 2 回行田市景観計画策定委員会 議事録

日 時	令和 6 年 3 月 22 日（金） 15:15～16:15	場 所	行田市産業文化会館 2 階 2AB 会議室
出席者	所属	出席者（以下、敬称略）	
委員	ものづくり大学	大竹委員長	
	(株)カラープランニングセンター	田邊副委員長	
	行田商工会議所	戸塚委員	
	特定非営利活動法人忠次郎蔵	田村委員	
	一般社団法人埼玉建築士会	吉岡委員	
欠席	宮本委員、福原委員、大野委員 栗岡委員、岡田委員		
行田市	都市整備部	高橋部長、寺田課長、吉田副参事	
事務局	都市整備部都市計画課	井上主幹（司会）、福島主任、栗田主任	
オブザーバー	(株)都市環境研究所（都市環境）	大野、下山、稲葉、橋戸	
議事	(1) 市民ワークショップについて (2) 特性・課題と景観形成の方向性について (3) 景観計画の策定について		
資料	・次第 ・資料 1 市民等の意識調査（市民ワークショップの結果） ・資料 2 景観特性と景観形成の方向性について ・資料 3 景観計画の策定に向けて		

1. 開会

都市整備部都市計画課井上主幹より委員 10 名中 5 名の出席が確認され、行田市景観計画策定委員会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、本委員会が成立していることが報告された。

2. あいさつ

大竹委員長より挨拶があった。

3. 議事

(1) 市民ワークショップについて

- ・事務局より議事（1）について説明があった。

(2) 特性・課題と景観形成の方向性について

- ・都市環境より議事（2）について説明があった。

(3) 景観計画の策定に向けて

- ・都市環境より議事（3）について説明があった。

【質疑応答】

田邊副委員長：委員会前のまちあるきから、本市のまちなかには歴史を感じる町割りや日本遺産の構成要素である建築物のみならず、例えば写真館などの当時の風景が思い出さ

れるような古い建築物が残っていることが分かった。このような歴史的な要素は手入れがされないと数年後には無くなっていくだろう。歴史的な要素を残していく例として、例えば、市役所から近い場所で見つけた比較的新しいコーヒー焙煎店などの商店が、写真館などの古い建築物に入居することでまちなかにコーヒーの香りが漂うなど、今は使われていない場所が再び動き出すような新しい動きがあると良いと感じた。鎌倉市では、景観やまちづくりの観点から、市が古い建物を所有している家主と借りたい人の橋渡しを行っている。建築物は使用されていないと徐々に傷んでいくため、今残っているものをいかに守っていくかということが行田市の景観まちづくりにおいて喫緊の課題と感じた。こうした空き家活用に対して、景観計画で出来ることは限られる。そのため景観計画が策定されることを契機とし、商工や観光などの関連する各課が連携することで、数年後には町割りの原型や古い建物が無くなるような状況にならないように手だてを打つ必要がある。時間的に猶予がない課題と感じた。

「資料2 景観特性と景観形成の方向性について」には、現在の行田市が有する特徴や資産が体系的にまとめられている。資料中の利根川や忍川などの橋や水門の管理者は国や埼玉県となるため、景観行政団体として意見を伝えていく必要がある。その点においても、公共団体間の連携は非常に重要と感じる。

また、過去にサイクリングで行田市を訪れたことがあるが、開放的で良い景色が広がり、河川沿いの道は気持ちよい風の通り道になっている。こうした魅力的な点は、是非伸ばしてほしい。行田市の景観資源は数キロ単位で様々な場所に点在しているため、自転車で回するにはちょうどよい距離感である。各資源を繋ぐような小さな拠点や、例えば水飲み場などを整備すると、サイクリングに来た人にとってもまちなみと景観が繋がっていく施策になるのではないかと感じた。

4. 意見交換

都市環境：「資料2 景観特性と景観形成の方向性について」と「資料3 景観計画の策定に向けて」についてご意見を頂きたい。資料2に対しては、資料中に記載している本市を表す景観特性や今後取り組むべき景観施策に過不足ないか、また、ワークショップや本日のまちあるきの感想も頂きたい。資料3に対しては、景観計画策定に向けて来年度具体的に検討していく内容に対して意見を頂きたい。

田村委員：景観の規制や条例をつくることは賛成だが、資料3の「視点3. 市民等による景観まちづくりの活動を拡げ、愛着の醸成やブランディングに活かす」に記載されているように、今ある景観を維持し、新たに魅力をつくり出すことが、より重要と考える。忠次郎蔵を守るNPO団体での活動を通して、他人の所有物を維持管理していくのは大変だと実感している。忠次郎蔵は行田市商工会議所が買い取り、我々のNPO法人が低廉な賃料で借用し、維持管理を行っている

が、先日の地震で老朽化した蔵に入ったクラックが日々大きくなるなど、維持管理は大変である。市全域では難しいと思うが、例えば重点地区では景観だけではなく、建物の維持管理を積極的に行政が支援するなど、他部署横断的な取り組みが必要と考える。そういった視点も記載頂きたい。

もう一点の課題は、高齢化によって担い手が少なくなっている状況において、いかに既存の取り組みを継続し、発展させていくのかということである。全ての景観づくりにおいて担い手となる「人」は重要である。また、視点1に記載されている全市景観の底上げは大切な観点であり、景観づくりに対する市民の気運が上がっていくことが望ましい。

吉岡委員：私は建築設計業に携わっており、建物の集合体である景観に関わる本委員会の委員であることに対して非常に責任を感じている。田村委員と同様に NPO 法人足袋蔵ネットワークに参加しており、同 NPO 法人が主催する足袋蔵めぐりは今年で 20 回を迎える。

一番の課題は、足袋蔵の保全活用である。ソフト面から維持管理するにも職人の高齢化により継承者がいない。NPO 法人として、今後どのように老朽化した蔵を維持していくのか、またそれに対してどのようにバックアップしていくかが課題だと考えている。

戸塚委員：景観をより良くすることで、行田市に対して魅力を感じる人が増え、まちに賑わいが生まれることを期待したい。コロナ禍明けは旅行支援などもあり、かなり多くの人々が本市を訪れたが、休憩スポットやトイレ不足など人が集まった時の課題も見られた。ただ、まちなかが人で賑わうことは商売をしている立場からすると嬉しい。行田市の景観が変わることによって、人の流れが変わってくることを期待している。

田邊副委員長：市役所で頂いた「足袋蔵のまち行田」というパンフレットに掲載されている日本遺産の構成要素の写真はトリミングが上手く、実際少し広角で撮影すると写ってほしくないものがかなり写るのではないかと感じた。そこに日本遺産の構成資産の周囲の在り方を整え、景観の連続性をつくっていくヒントがあると感じた。私は、千葉県佐倉市において、建物の建替えなどの際に、第三者的にアドバイスをする景観アドバイザーをしている。例えば、行田市では助成制度を使って格子風の柵を建てたという事例があったが、そういったものに対して技術的な助言をしている。佐倉市では助言を受け入れ自主的に行動する方が多く、助言の前後では外構や建築物の色彩や素材などの計画内容にかなり差が生まれている。最近、佐倉市において、市の城下町の重要な通りに新しくパン屋ができる案件があり、行田市にできたパン屋の事例を紹介したところ、良い事例と感心されていた。行田市においても、重点地区では景観アドバイザーなどを設置し、

技術的な助言ができるような仕組みを設けるべきだと感じる。例えば、日本遺産の構成資産の両隣では、必ず助言制度を使うなど特徴のある施策を展開していくのが良い。幸い、行田市には吉岡委員のような建築家など人材が豊富であり、実現できると思う。直接ハード整備に対してお金を投資するだけでなく、技術的な助言の中で出来ることに取り組んでいただくことも検討できると良い。

大竹委員長：本日のまちあるきの中で見た助成制度を活用して修景された柵のように、まち並みの一体感を生むためのデザインコードの運用も検討いただけると良い。点・線・面という話があったように、点在している良いものの間にデザインコードに基づくものができていくと、行田らしいまち並みになっていくのではないかと感じた。例えば、資料2で4つの景観構造として挙げている「人の営み」「まち並み・暮らし」「歴史・文化」「自然・田園」の特性別にデザインコードがあると良いと感じた。また、行田市はとても暑くなる地域でもあるため、休憩スポットに日陰になるようなものがあると良いと感じた。休憩できて花手水のような花があり、日陰があると人が集まれる場がつくられていくと感じた。

5. その他

(1) 次回の策定委員会について

事務局：令和6年6月を予定している。日程調整は改めてご連絡させていただく。

6. 閉会

以上

<会議録の確定>

確定年月日	主宰者氏名
令和 6 年 4 月 1 日	大竹 由夏